二〇一八年八月一日（ウエブ句会：参加者二三名）

一水に沿ひて涼しき神の庭　菜々
松林縫ひくる浜の風涼し　わかば
穏やかな一湾突と鰡の飛ぶ　ぽんこ
吉と出し御籤に暑さ忘れけり　さつき
海の藍たたへて灼くる白砂浜　わかば
空蝉やわらべ地蔵の肩の上に　智恵子
打水の祇園小路に灯のともる　宏　虎
一弦琴ロビーに飾る避暑ホテル　なおこ
梅干しをふふみて励む句会かな　こすもす
かきまぜて青春の音ソーダ水　うつぎ
節電と言うてはをれぬ暑さかな　うつぎ
酷暑日や思考停止の続きをり　三　刀
押し車鰻を食べに脚軽し　あさこ
門ごとに水の鉢おく路地涼し　たか子
海坂に険競ひをる雲の峰　せいじ
落蝉のまだ生きたしと宙を掻く　明日香
砂灼けて脚に噛みつく浜辺かな　せいじ

吟行句会みのる選

二〇一八年八月一日（ウエブ句会：参加者二三名）